



TITLE:

雜纂：伊藤(隼三)先生追憶會

AUTHOR(S):

鬼束, 惇哉; 吉田, 久士; 村上, 治朗

CITATION:

鬼束, 惇哉 ...[et al]. 雜纂：伊藤(隼三)先生追憶會. 日本外科宝函 1938, 15(4): 635-662

ISSUE DATE:

1938-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204957>

RIGHT:

纂 雜

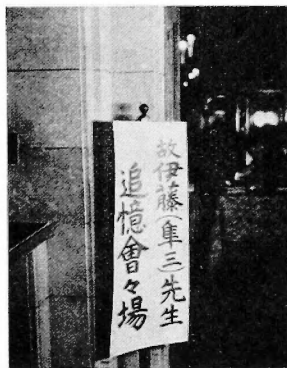
伊藤(隼三)先生追憶會

鬼束惇哉, 吉田久士, 村上治朗 手記

伊藤隼三先生が満60歳停年制ニヨリテ退官サレタノハ大正13年5月ノ事デアルカラ今ハ早ヤ15年目ニ當リ, 御郷里鳥取市デ薨クナラレテカラ10年目ニナツタ。3年或ハ7年ニ相當シタ年ニ先生ノ追悼會ヲ行ツテハトイフ議モアツタガ, 追悼シテ今一度哀シモウヨリモ, 然ルベキ機會ニ皆ガ集ツテ先生ノ追慕ヲシテ感謝シヤウデハナイカ, ソレニハ先生ノ嗣子肇博士ヲ始メ御近親ノ方々ニオ願ヒシテ先生手澤ノ品々ヲ展觀サセテ戴キ, 又來會者モ先生ニ關スル思ヒ出ノ品々ヲ持チ寄ラウ, トイツタ譯デ, 第10回日本醫學會ガ京都デ開催サレル其ノ前夜昭和13年3月31日ヲ期シテ「故伊藤(隼三)先生追憶會」ヲ開クベク現外科教室員ノ手デ萬端ノ準備ガ進メラレ, 3月中旬ニ, 嗣子肇博士御夫妻, 次男進學士, 長女望月博士令夫人及ビ望月博士並ビニ次女森學士未亡人(御缺席)ヲ招待シ, 猪子先生, 平井先生, 和辻先生ノ3名譽教授ニ御案内ヲ申上げ, 先生ノ教ヲ受ケタ人々ヘハ次記ノ如キ案内狀ヲ發送シタ。

其當日ハ風ハ稍々強カツタ
ガ晴天デアル。續々ト送ラレ

第 1 圖



附 受

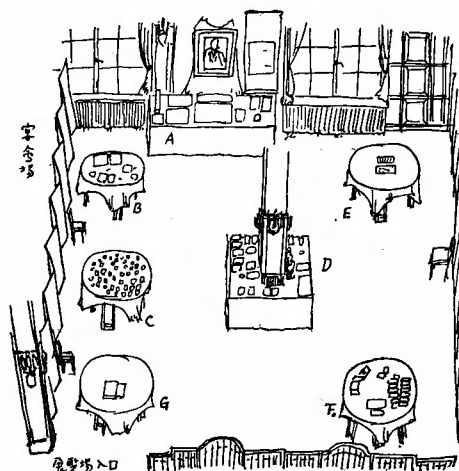
御返事願上候	御出席ノ有無來ル二十五日迄ニ到着スル様	資料 追憶ノ資料御所持ノ向ハ當日會場ヘ御持參「陳列係」ヘ御貸與被下度候	會費 金七圓(當日會場受附ニテ戴キマス)	場所 京都市河原町御池 京都ホテル	時日 昭和十三年三月三十一日午後四時
發起人	鳥 堀 隆 三	敬具	被下度此段御案内申上候	相催シ度候間萬障御繰合セ御出席	賀 拜 候 候 初 春ノ候益々御清榮ノ段奉
故伊藤(隼三)先生ノ追憶會	賀 候 初 春ノ候益々御清榮ノ段奉	賀 候 初 春ノ候益々御清榮ノ段奉	賀 候 初 春ノ候益々御清榮ノ段奉	賀 候 初 春ノ候益々御清榮ノ段奉	賀 候 初 春ノ候益々御清榮ノ段奉

タ先生追憶ノ資料ガ追憶會場ノ東側ニ設ケター劃ノ展覽場ニ陳列サレ終ルト間モ無ク, 定刻前トイフニ早ヤ來會サレル人々ガアル。來會者ハ受附デ先ヅ2冊ノ署名簿ニ記名スル。其ノ1冊ハ記念トシテ伊藤家ヘ贈呈サレ, 1冊ハ外科學教室ニ寄贈サレテ永ク保存サレルモノデアル。署名者凡テ68名デアツタ。(次頁ノ第2圖ハ猪子先生ガ署名シテ居ラレル所デアル。)

追憶資料展覽場

署名ヲ終ルト來會者ハ展覽場ヘ案内サレタ。此處ニハ展覽臺ガ7個設ケラレテアル(第3圖)。北側ノ壁面ニ沿ツテ青竹ノ臺ニ白布デ被ヒ、ソノ上ニ先生ノ大寫眞ガ南面シテ掲ゲラレテアル、此レハ宮本哲博士ノ複製寄贈ニナルモノデアル。其ノ前ノ大卓(A)ニ、勳二等記(之ハ桐箱ニ納メタル儘)、履歴書、東京大學豫備門卒業證書、帝國大學醫科大學卒業證書、内外各大學ノ學位記、最初ノ洋行ニ關スル札幌區長ノ命令書、京都帝國大學教授就任ニ關スル北垣男爵ノ書翰等ノ伊藤家門

第 3 圖



ノ數々ノ間ヲ低回サレテ、殊ニ感慨無量ナルヤウニ見受ケラレタ。

豫備門ノ卒業證書ハ最初ニ「伊藤隼三東京大學豫備門各學科ノ試問ヲ完ウシ正ニ其業ヲ卒ヘリ」ト云テ之ヲ證ス。トアツテ其レニ次イデ、修身學 岡松甕谷^④、獨逸語學 Dr. A. Groth、數學 邨岡範爲^④、化學 丹羽藤吉郎^④ナドト15ホドノ教員ノ自署捺印ガアリ、最後ニ、東京大學豫備門長正七位杉浦重剛^④トアル。高等學校ノ數ガ幾何アルカ知ツテ居ル人ガ稀ダトイフ現今トハ異リ、大學豫備門ヲ卒業スルノハ天下ノ秀才デアツタメデアロウ、此ノ證書ニハ番號ノ如キモノハ附ケラレテハ居ナイ。

平井先生『伊藤サンハ、繪ガ下手デ……(ト、畫學 東京大學豫備門助教諭 狩野友信^④トアル處ヲ指示シ乍ラ)(第4圖) 此ノ先生ニ伊藤サンハイデメラレタモノダ……』

醫科大學ノ卒業證書ハ、現在ノ卒業證書ノ倍程モアル大キナモノデアル。之ニモ前ト同ジク各學科ノ教授乃至教師ノ自署捺印ガアル。其ノ頃ノ大學職員ハ如何ナル人カトイフト……

第 2 圖

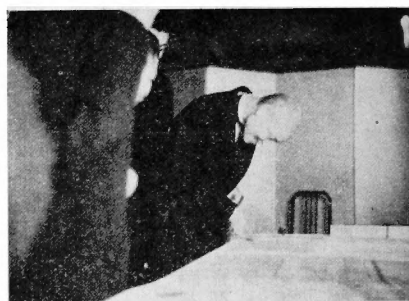


外不出ノ品

受附ニテ各自署名

々ガ陳ベラレテアル。伊藤先生トハ明治14年來ノ親友デアル平井毓太郎先生ハ、此ノ遺品

第 4 圖



記念品ニ引キ込マレテキル平井先生

物理學，物理學實習	村岡範爲馳
無機化學，有機化學	E. F. Eykman
分析術	久原躬弦
動植物學	松原新之助
解剖學，胎生學，組織學，組織學實習，解剖學實習	小金井良精
解剖學，病理解剖學	Dr. Joseph Disse
生理學	大澤謙二
藥物學	高橋順太郎
診斷學，內科各論，內科臨牀講義	佐々木政吉
外科總論，外科各論，外科臨牀講義，眼科學，裁判醫學，眼科臨牀講義	Dr. J. Scriba
繃帶學，皮膚病及黴毒學	宇野朗
局處解剖學	今田東
內科各論，產科學，婦人科學，內科臨牀講義	Dr. E. Baelz
外科各論，外科臨牀講義，外科手術實習	佐藤三吉
產科模型實習，產科婦人科臨牀講義	濱田立達
眼科學，檢眼鏡用法，眼科臨牀講義	甲野槲
眼科臨牀講義	河本重次郎
內科臨牀講義	青山胤通
精神病學	礪 俣
衛生學，生理學實習	緒方正規
裁判醫學	片山國嘉
小兒科臨牀講義	弘田長
病理學	三浦守治

總長ハ加藤弘之博士，學長ハ三宅秀博士，教頭ハ大澤謙二博士デアツタ，トイフ時代デアル。

札幌區長ノ命令書トイフノハ次記ノ如キモノデアル

『 命 令 書

公立札幌病院長 伊 藤 隼 三

今般醫學研究ノ爲メ二ケ年間歐米各國へ遊學ノ目的ヲ以テ辭職出願ノ處 當區各町總代人
會ノ決議ニ依リ在職ノ儘洋行ヲ爲スヘシ 洋行中ハ俸給ヲ支給セス 旅費補助トシテ金四
千圓支給候條歸朝後滿三ケ年就職スヘキ義ト心得ラルヘシ

明治廿九年十月五日

札幌區長 林 顯 三 』

之ニ續イテ次ノ文ガ上ト同一ノ野紙3枚ニ克明ニ書カレテアル。

『肅啓 這般醫學ノ濫奥ヲ研究スルノ目的ヲ以テ海外へ遊學セラルルニ際シ貴下カ當區民ニ與ヘラレタル利益ノ至大ナルヲ感謝シテ區民ノ衷情ヲ表セントス

明治廿七年三月ヲ以テ貴下カ當病院長ニ就職以來日夜精勵能ク職員ヲ統率シテ井然院務ヲ整理セラレ患者ノ緩急ニ應シテ回診スルヤ星ヲ戴テ出テハ月ヲ踏テ歸ル遠近噴々其治術ノ巧妙ナルヲ稱シ其治ヲ請フモノ日ニ益々多キヲ加ヘ現ニ收容スル患者百五拾餘名外來患者百參拾餘名ニ達セリ是偏ニ貴下カ學識豐ニシテ經驗ニ富ミ德義ニ篤キニ因ル故ニ二十七年度以來病院經費毎々巨額ノ剩餘金ヲ生セシヲ以テ資財ヲ増殖シ或ハ病室ヲ増築シ又ハ病院内外ヲ修補改造シテ規模ヲ擴張シ更ニ輪奐ノ美ヲ加フル事ヲ得ルニ至レリ如此隆盛ニ趣キ設備整頓シテ醫治上遺憾ヲ感スルコトナク區民ヲシテ安心立命ノ地ヲ與ヘラレタルハ亦貴下ノ賜ニシテ區民ノ永ク感銘スヘキ所トス

今ヤ現存ノ形勢ヲ以テ當札幌區ノ將來ヲ推測スルニ益々市區ノ擴張ト共ニ繁榮ヲ來タスヘキヲ知ル當區ハ本道ノ首都ニシテ事物ノ發達ト共ニ月ヲ閱シ愈々衛生事務ノ擴張ヲ必要ト認ムルヲ以テ今回貴下カ海外へ遊學セラレントスルハ恰好ノ時機ニ投スルヲ以テ當區民ノ代表者タル總代人ノ決議ニ由リ貴下現職ノ儘遊學セラレン事ヲ希圖シ併セテ海外各國日進究理ノ醫術上貴下踏踵ノ地感得セラルル處ノ有益ナル事項ヲ撰ミ貴下歸朝ヲ俟タス當病院ヘ報告セラルルノ勞ヲ囑托シテ其認諾ヲ得タリ是レ獨リ當區ノ利益ノミナラス亦以テ全道ノ裨益タラスンハアラス貴下他日歸朝ノ後子院務ニ服セラルルノ秋ニ至テハ當區ノ如キハ此歲月間ニ於テ發達ノ度モ著ルシク益々醫術ノ擴張ヲ必要トスルニ至レルハ信シテ疑ハサル處ナリ此ノ時期ニ當リ曾テ實檢セラル、處ノ經綸ヲ當病院ニ實施セラルルニ至ラハ當病院ノ隆盛期シテ見ルヘクシテ所謂本道ノ首都タル地位ノ病院ニ背カサル可シ

已ニ貴下カ洋行セントスルニ際シ此顯著ナル効績ノ一斑ヲ臚列シテ區民ノ至誠ヲ表スルト共ニ將來ノ希望ヲ叙シ茲ニ洋行旅費ノ一部トシテ病院經費收入剩餘金ノ内ヨリ金四千圓ヲ贈呈ス幸ニ區民微意ノ在ル所ヲ諒セラレ道途悠遠異境ノ風物ニ身心ヲ攝養シ恙ナク飯朝ノ上ハ亟ニ其職ニ復シ區民ノ安寧幸福ヲ保障セラレン事ヲ懇囑ノ至ニ堪ヘス 頓首謹言

明治廿九年十月五日

札幌區長 林 顯 三 ㊤

札幌區町總代人

第一部總代人 伊 藤 辰 造 ㊤

同 森 源 三 ㊤

第二部總代人 岩 井 信 六 ㊤

同 長 谷 川 榮 助 ㊤

第三部總代人 堀 井 民 三 ㊤

同	若 月 幸 七 ㊟
第四部總代人	渡 邊 萬 治 ㊟
同	吉 田 松 太 郎 ㊟
第五部總代人	山 崎 幸 太 郎 ㊟
同	笠 原 文 司 ㊟
第六部總代人	對 馬 嘉 三 郎 ㊟
同	足 立 民 治 ㊟
第七部總代人	本 郷 嘉 之 助 ㊟
同	堀 内 龍 太 郎 ㊟

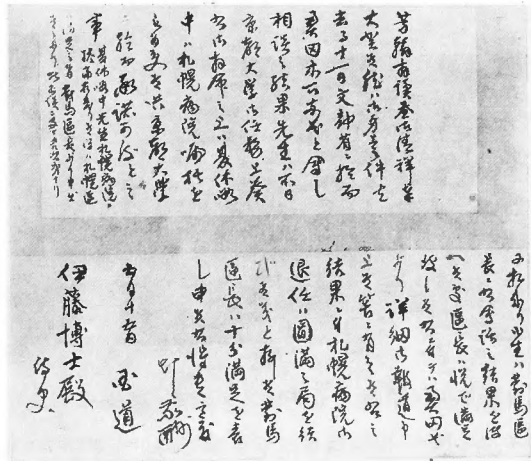
公立札幌病院院長醫學士伊藤隼三殿

』

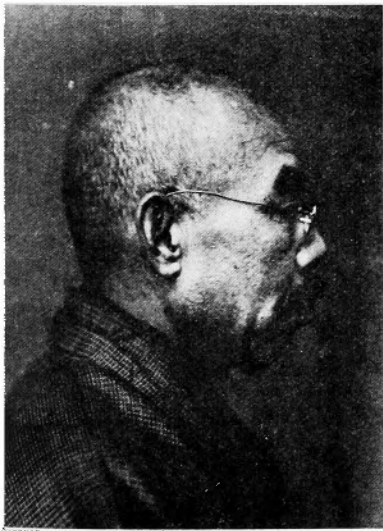
斯クシテ先生ハ、日清媾和馬關條約締結ノ翌年ナル明治29年11月15日ヨリ、同32年12月6日迄歐米、主トシテ瑞西ニ遊學サレタノデアツタ。

北垣國道氏ノ書翰トイフノハ、先生御歸朝後札幌病院長ニ歸任サレテ居タガ、明治32年9月我ガ京都帝國大學醫科大學ガ創立サレ35年ニハ先生ハ札幌病院ヲ退任シテ本學教授ニ就任サレタ、其ノ経緯ニ關スル一文献デアル。全文ハ寫眞(第5圖)ノ如クデアルガ、其ノ中「夏休暇中

第 5 圖



第 6 圖



伊 藤 先 生

北垣國道氏書翰

先生札幌病院擔當相成候得ハ札幌區ハ満足之旨對馬區長ヨリ申出候ニヨリ「云々」トアルハ、前ノ札幌區町總代人連名ノ感謝書翰ト相應ズルモノデアル。

西北隅ノ圓卓(第3圖、B)ニハ先生ニ關スル寫眞類ガ陳列サレタ。明治16年ト註サレタオ若イ頃ノモノカラ晩年迄ノ多數ノ寫眞、或ハ鳥取市御本邸ヤ伊藤病院ノ實景、或ハ御葬儀ヤ御墓ノ有様、等々ト珍ラシイモノガズラリトナラフ。醫學部學生卒業生記念寫眞帖カラ特ニ先生ニ關スル部分ダケヲ選出サレタモノラシ

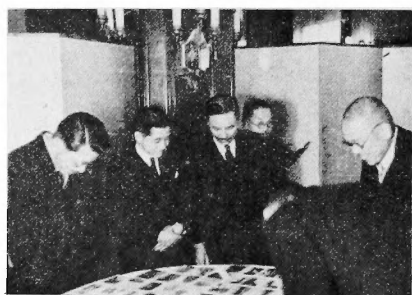
イ帖モアツテ、ソレニハ、今尙殘ツテ居ル醫院西大講堂ニ於ケル先生ノ外科臨牀講義ノ「コロタイプ」寫眞ガアル、先生ハ素足ニ下駄ヌハイテ俯キ加減診察臺上ノ患者ヲ熱心ニ診テ居ラレル、「プラクチカント」ノ學生ガ其ノ傍ニ3人控ヘテ居テ1人ハ後向キダカラ判ラヌガ他ハ2人共立派ナ髭ヲハヤシテキル。今時ノ若イモノガ見ルト稍々奇異ナ感ジヲ受ケル（伊藤先生ハ最初ノ臨牀講義デハ消毒ノ必要上出來ルコトナラバ眉毛モ頭髮モ剃リタイノdealト言ハレ、從ツテ鬚髭ナドハ嚴禁サレテ居ツタモノdeal。上記ノヒゲガ自然ニ默許サレル様ニナツタノハ先生ガ**「バグタベスト」**ノ學會ニ出張サレタ以後ノコトdeal）。

其ノ南ニ隣ツタ圓卓（第3圖，C）ニハ、直徑5尺程ノ桌面一杯ニ、在外中ノ先生ガ折ニフレ時ニフレ嗣子肇氏ヘ送ラレタ多數ノ名所繪葉書ガ陳ベラレタ（第7圖）。其レニ書カレタ短文ノ一ツツニ先生ノ面目ガ躍如トシテ人ニ迫ツテ居ル。

Bern 市街俯瞰圖ノ文ニ曰ク『明治卅二年一月八日 隼三 肇殿 日々「イタヅラ」ヲスル事ト喜ビ居リ候』又、背囊ヲ負ヒ「ビッケル」ヲ擔イデ山小屋ニ急グ人々ノ圖ニ『登山ノ狀 三月

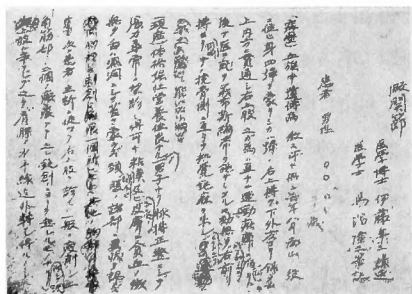
第 8 圖

第 7 圖



五日 隼三 肇殿 イタヅラヲシテ。ヲデーサンヤ。ヲツカサンヲ。コマラセルノガ。カンジンデス』 Bern 市街風景繪葉書（第8圖）ニ「ケスレル町」、「塔」ナドト説明ヲ加ヘ左 1/3 ノ餘白ニ『肇ガ學校ニ行クトノ報ニ接シ 其ノ様ナ子供ガアルカト驚クハ 自身ノ學問ノ足ラザルヲ愧テナリ 然シ肇ハ學校江行キテモ勉強ハナリマセヌ 遊ビテイタヅラヲ御爲シナサイ 四月廿四

第 9 圖



日 伊藤隼三』 蝶ノ繪ニ Herzlichen Segenswunsch zum neuen Jahr! 云々ト印刷サレタ賀狀ノ一隅ニハ『清書ヲ見又手習杯ヲシナイデイタヅラヲシナサイ、伊藤隼三』トアル。何レモ此ノ類deal。

展覽場中央ノ柱ヲ取圍ンデ卓子4個ヲ組合セ（第3圖，D），此處ニハ先生ノ藏書ノ一部（Grammatica normale teorica ed applicata della Lingua Italiana. [G. Parato], Kleine russische Sprachlehre [Motti],

他16冊), Lノート7類(鳥取市立病院北浦保憲博士送附), 先生遺愛ノ黒キ石塊(望月教授出展, 高サ2尺許リノ大塊ニテ如何ナル由緒ノアルモノカ全ク不明ノモノデアル), 波多腰博士ニ與ヘラレタル激勵文, 離誌發表用ノ臨牀講義筆記ニ先生ガ加筆サレタ原稿(鳥潟教授出展)(第9圖), 等ガ處狹シトバカリ列ベラレタ。柱ニ靠セデクロネッケル教授(先生ノ師事サレタペルン大學生理學ノ教授。先生ハ其ノ指導デ *Wärmestich* ノ仕事ヲサレタ)ノ像ガ置カレタ。

Lノート7ハ53冊アリ, 凡テ寫眞(第10—12圖)ニ見ル如ク製本サレテアル。

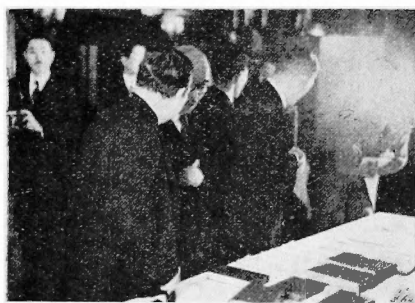
第 10 圖



第 11 圖



第 12 圖



平井先生『伊藤サンハ仲々勉強家デ, 大學カラ歸ツテカラソノ日ノLノート7ヲスツカリ訂正整理シテカラデナイト遊バレナイデシタ。訂正スルトイフデモ一字一字丁寧ニ *radieren* シテ(ト, 1冊取り上ゲテ消ス身振リラシ乍ラ, [第11圖ノ右端])克明ニナホサレタモノデス。他ノ人ハ西洋人ノ講義ヲLノート7ニトルコトガ出來ンノデ皆ナ此ノLノート7ノ御厄介ニナツタモノデス……』

東北隅ノ圓卓(第3圖, E)ニハ, 先生補筆ノ診斷書下書キ(星野教授出展)ガ陳列サレタ。和辻先生ガ其ノ昔(明治43年?)耳鼻科教授トシテ手術中ニ, 御自身ノ指ヲ負傷サレテ外科ニ入院サレタ事ガアツテ其ノ受持醫員ガ當時外科教室員ダツタ星野教授デ, 和辻教授缺勤ニ就テ診斷書ガ要ルトイフワケデ, 下書キヲ作ツテ伊藤先生ノ許ヘ罷リ出タトコロ「コレデハイケマセンゼ!」ト先生ガ自身デ負傷ノ原因ガ公務デアル旨ヲ書キ入レラレタ珍品デアル。

星野教授(和辻名譽教授ニ向ツテ)『先生, 未ダアノ *Narbe* ハアリマスカ?』

和辻先生『アルヨ。コレデ(ト, 診斷書ノ下書キヲ指シ乍ラ, [第13圖])公傷トイフコトニナツテ, 入院料ヲ免除ニナツタノダ。……僕ハアノ頃カラ貧乏ダツタンダナア。』

某氏『ヨク之ヲ殘シテ置イタモノデスナア。伊藤先生ガ之ヲ御覽ニナツタラ……』

望月教授『ソリヤア、見タラ必ズ破ツテシマヒマ
スヨ。』

鳥潟教授『何デモナイヤウナモノデモ、アトニナ
ルト大變思ヒ出ニナル……』

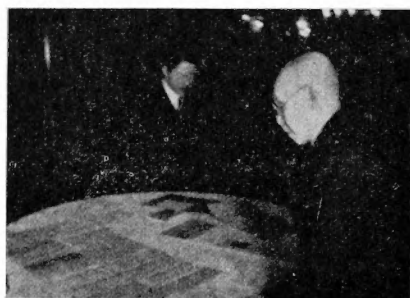
東南ノ圓卓(第3圖, F)ニハ鳥潟教授出展ノ伊藤
先生書翰ト寫眞トガ陳列サレタ(第14圖)。

封筒ダケデモ15—6枚アリ、開ゲラレタ書翰ハ鳥
潟教授ノ獨文著書出版ニツイテ其ノ新刊ヲ東京ノ某
教授ニ贈ツタカ若シモ贈ツテナケレバ直グオクルヤウニトイフ文面デアル。

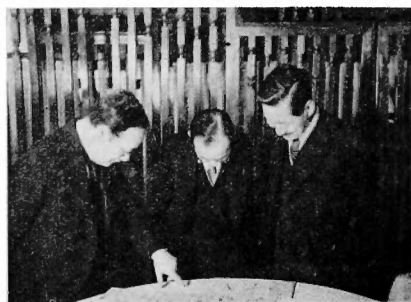
第 13 圖



第 14 圖



第 15 圖



鳥潟教授『某氏ハ所謂豪イ人カモ知レンガ、學問上私ノ著書ヲ此方カラ貰ツテ下サイト送ル
ベキモノダトハ思ヘナカツタノデ、其ノ旨ヲ先生ニ申上ゲテ、此處ニ書イタヤウニ(第15圖)到
々送ラナカツタヨ。』

西南隅ノ入口ニ近イ卓子(第3圖, G)ニハ、1昨年11月ニ開催シタ猪子先生喜壽祝賀會記念
寫眞帖ガ展觀サレタ。今度モ同様ニ寫眞帖ヲ作ツテ希望者ニ配布サレル計畫デアル。

午後5時40分ニ「ホテル」屋上デ記念撮影(第16圖)ヲ行ヒ、ソレヨリ宴會場ニ入ツタ。

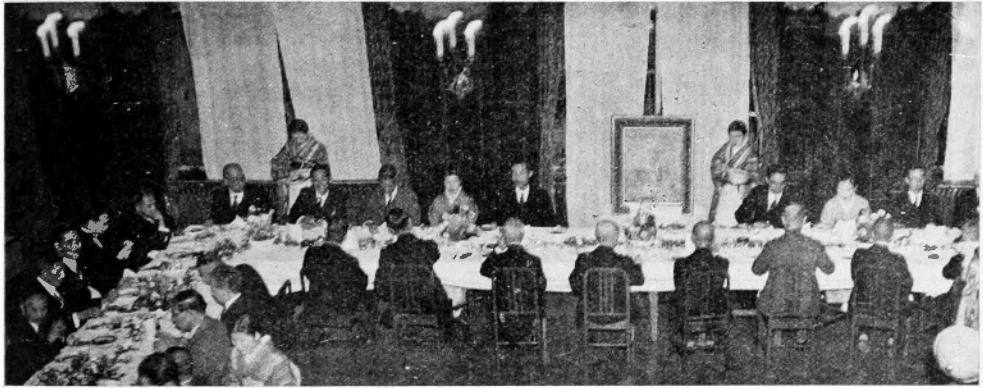
第 16 圖



宴會場ノ光景

屋上ニテ記念撮影ガ終ツテカラ順次ニ「エレヴェーター」ニテ「ホテル」ノ第1階ニ設ケラレタ宴會場ニ入ツタ。宴會場ノ中央正面北側ノ壁ニ近ク南面シテ伊藤先生ノ御肖像ガ食卓ヲ前ニシテ、マダ白布ニ覆ハレテ安置サレテアル。御肖像ノ右ニハ、先生ノ嗣子肇博士夫妻、左ニハ次男進氏、長女文重サン(京都府立醫大教授望月博士令夫人)ガ續イテ着席サレ、其ノ兩側ト前面トニ參集者一同着席ヲ終ル。時ニ午後6時5分。鳥瀉教授ガ「ドーゾ御起立ヲ願ヒマス」ト述ベタニ從ヒ一同起立默禮ノ裡ニ「ボーイ」長ノ手デ御肖像ノ白布ガ撤セラレタ。宛カモ伊藤先生モ食卓ニ向ツテ着席サレテキル感ジデアル。

第 17 圖



續イテ鳥瀉教授ハ起立ノ儘次ノ様ニ挨拶ノ辭ヲ述ベラレタ。

『一寸幹事ヲ代表シテ御挨拶申上ゲマス。ドウゾ御坐リ下サイ。ア、今日ハ伊藤先生ノ追憶會ヲ催シマシタコロ、カクモ多數ノ方々が御臨席下サイマシテ私共ハ幹事トシテ喜ビニ絶エマセン。』

追憶會ノ主旨ヲ1, 2ノ方ハマダ十分ニ理解サレテ居ラレナイラシイデス。追憶會ヲ追悼會ト考ヘラレル向キノ方モアリマシタガ、我々ノ主旨ハ何モ追悼シテ一同相集ツテ改メテ悲マウトイフ心ハナイノデアリマス。先生ニ關係ノアルイロイロノ昔話ヤ記念物ヲ集メテ、先生ガ今日デモ猶ホ未ダ吾々ノ間ニ生キテオラレルコトヲ自覺シテソレヲ話シ合ヒタイノデアツテ、少シモ悲シクハナイノデアリマス。

ズツト以前ニハ先生ノ3周忌トカ7周忌トカノ追悼會ヲヤラウトイフ様ナ議モアリマシタガ、今日ハソレデハアリマセン。私ハ、先生ハ死亡サレタノデハナイ、先生ノ肉體ハ亡クナラレテモ靈魂ハ何時マデモ生キテ我々ヲ鞭撻シテ下サル、胸ノ中ニ生キテ居ラレルコトヲ感謝シテキルモノデアリマスカラ、毛頭世俗のナ追悼會ナドヲヤラウトイフ考ヘヲ有ツテ居リマセン。ソウイフ意味デ我々幹事ノ心ヲ體セラレテ、先生ニ賞メラレタコト、叱ラレタコトヲ言ヒ合ツテ

頂キタイノデアリマス。(卓上ノ「メニュー」ヲ手ニ取り上げ更ニ挨拶ヲ續ケ)

“Das Feuer brennt so sehr,
Die Liebe brennt noch mehr.
Das Feuer kann man löschen,
Die Liebe kann man nicht vergessen.”

立 献

一 食 前 小 菜
一 クリーム ハーブ
一 比目魚の洋酒煮
一 鶏肉と伊勢海老のトマト煮
一 季節野菜の取合せ
一 アイスクリーム フルーツかけ
一 果 實
一 小 菜
珈 琲

天そゝり立つ成陽の
宮居ことく焼きし火も
夜こと日ことに燃えもゆる
心の奥に較へんや
焰は空を焦すとも
消さはやかて消えぬへし
心の奥に燃ゆる火は
胸より胸に傳はらん

ソコデ此ノ「メニュー」ノ裏ニ印刷ニナツテキルノハ、我々ノ第2回卒業生ガ卒業ノ時、卒業
「クラス」會ヲ平乃家デヤリマシタ時、先生ハ例ニヨツテ滿ヲ引キ痛飲サレ、快活ニナラレテ中
腰デ手眞似身振リヲサレナガラ、此ノ歌ヲ2度モ誦マレマシタ。

ソノ時先生ハ私ニ、「君、此ノ詩ヲ日本語ニ譯シテ持ツテ來イヨ」ト言ハレマシタ。ソノ時私
ハ「カシコマリマシタ」ト答ヘ申シテ其後譯シマシタガ、遂ニソノ譯文ヲ御目ニカケナイ前ニ
先生ハ somatisch = 亡クナラレ、生前ニ差上ゲルコトガ出來マセンデシタ。

其後ニナツテ私ガシュワイツ(瑞西)ニ行ツタ時、ベルンデ、11月半バノ或ル寒イ夜、私ガ何
時モノ様ニ机ニ向ツテ「ペン」ヲ走ラセテ居リマスト、丁度裏庭窓ノ下デ、霧ニ包マレタ闇夜ノ
中カラ此ノ歌ノ合唱ヲ聴キマシタ。私ハ直チニ卒業當時ノコトヲ想ヒ出シテ「先生モベルンデ
此ノ歌ヲ聴カレタノダナ」ト「ア、コレダナ」ト思ヒマシタ。卒業ノ時ハ此ノ歌詞ノ眞ノ意
味ハ知りマセンデシタ。歌詞ノ中ニ Liebe ナド、イフ言葉ガアルノデ、惜別ノ歌デアルトイフ
コトガ判ラナカツタノデアリマス。此ノ歌ハ、故人ヲ追慕哀悼スル歌詞デアツテ、情歌デハア
リマセン。故人ヲ偲ブ心ガ胸カラ胸ニ傳ハリ消サウト思ツテモ消エナイ心ヲ言ヒ表シタモノデ
アリマス。ソノ積リデ昨日私ノ室ニ來タ「ホテル」ノ「ボーイ」ヲ待タセテオイテ又訂正シマシ
タ。(「メニュー」ヲ見ナガラ)コレガソレデアリマス。

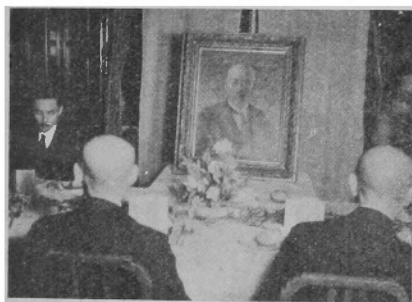
ツマリ故人ヲ追憶スル意味デアツテ、唯、亡クナツタ人ガ自分ノ胸奥ニ何時迄モ生キテキル
トイフコトデアリマス。他ノ火ハ消エテモ、先生ヲ追慕スル火ハ後カラ後カラト出テクル人ノ

心ノ中ニ燃エ移リ何時迄モ消エナイトイフ意味デアリマス。

卒業ノ時ノ先生ノ歌ガ幾年カ後ノ今日ニ、コウイフ風ニ役ニ立トウトハ夢ニモ豫期シマセンデシタガ、コウイフ風ニ致スコトハ先生ヲ生カスコトニナルト考ヘマス。私共ハ悲シムノデハナイノデアリマシテ、先生ノナサレタコトヲ更ニ鮮明ニ生カシタイノデアリマス。先生ヲ殺スノモ生カスノモ一我々門下生ノ仕方如何ニカ、ツテオリマス。今後我々ノ氣ヲツケネバナラスコトハ、如何ナル仕方ニ於テモ決シテ先生ヲ殺サナイコトデアリマシテ、ソレガ我々ノ義務デアリマス。今日ハ先生ヲ偲ンデ、先生ノオ好キデアツタ酒ヲ飲ムノモ、先生ヲ追慕スル意味デアリマス。ドウゾ先生ヲ充分追憶スル意味デ、今夕ハ大イニ飲ンデ語り合ツテ頂キタウ御座イマス。之ヲ以テ御挨拶ニ代ヘマス。』

會食始マル。料理ハ最初先ヅ先生御肖像ノ前ニ供ヘラレ(第18圖)、ソレカラ會衆ノ間ニ順次

第 18 圖



正面ハ伊藤先生御肖像、ソノ右ハ嗣子肇博士、後向キ右ハ猪子先生、左ハ平井先生

ニ運バレル。

「ボーイ」ノオ酌モ先ヅ先生カラ始メラレル。凡テ先生ガ事實上其ノ席ニ居ラレルモノトシテ行ハレル。各處ニテ盃ヲ舉ゲテ歡談、笑聲ガ起ル。教室員ヨリ成ル寫眞係ハ處々ニ照明ヲ行ツテ、記念寫眞ノ爲ニ縦横ニ活躍スル。

「デザート」ニ入ツテカラ、鳥潟教授ハ徐ニ起立、紙ニ書カ、レタ記録ヲ見ナガラ次ノ様ニ先生ノ履歴ヲ略述サレタ(第19圖)。

『ア、之カラ伊藤先生ノ追憶談、昔話ヲシテ頂キ度イノデアリマスガ、其前ニ一應先生ノ略歴ヲ申上ゲマス。

第 19 圖

伊藤先生ノオ生レハ元治元年5月9日デ今年ハ75歳ニナラレマス。明治7年鳥取中學ニ入ラレ、本姓小林氏デアリマシタガ明治12年7月伊藤ト改姓、明治22年11月(東京帝國大學)醫科大學卒業、同24年9月30日迄同外科教室助手拜命、同年11月鳥取市本町1丁目私立伊藤病院長、同26年4月1日鳥取縣米子病院長、同27年2月12日札幌病院長トナリ、同29年11月15日ヨリ同32年12月6日迄歐米ニ遊學、主トシテ瑞西國ベルン大學コツヘル教授ニ師事シ外科學ヲ專攻サレマシタ。同35年3月17日論文提出、醫學博士ノ學位ヲ受領サレ、同年7月14日京都帝國大學醫科大學教授ニ任ゼラレマシタ。



先生ノ學術ノコト即チ Arbeit ノ主ナルモノヲ舉ゲマスト、Rektumkrebs ヲ Bauch ト Anus ノ兩方カラ合併的ニヤラネバナラナイコトヲ日本デ提唱サレタノハ先生ガ初メテデアリマス。

Epilepsie = 對スル コツヘル 氏手術ノコトハ今後ドウナルカ……先生御在世ノ時モ、之ハドウナルカ? ト言ハレタ位デアリマス。

Leberzirrhose = 對シ grosses Netz フ Niere ノ中ニ implantieren スルコトヲ、人間デ行ツタノハ私デアリマスガ、ソレニナル迄ニハ、先生指導ノ下デ磯部教授モイロイロト動物實驗ヲヤラレタノデアリマス。

ソレ以外ニハ澤山ノ「テーマ」ヲ出サレ、コツヘル 教授ハ「伊藤ハ色々ノ「テーマ」ヲ出スガ、ミナ奇抜デ面白イ」ト私ニ言ハレマシタ。

生理學ノコトデハ、ペルンノクロネツケル 教授ガ先生ノコトヲ大變褒メラレマシタ。ペルンニ居ラレタ頃ハ釣リガオ好キデ、アーレ川デ釣ヲシテ下宿ニ持ツテ歸ツテ食ベラレタ話ヲ其處ノ小使ガ話ヲシテクレタ位、小使迄モ長ク先生ノコトヲ知ツテ居リマシタ。

先生ノ御病氣ハ大シタコトハナカツタノデスガ、札幌ニ居ラレタ時強イ肺炎ニ罹ラレ、トテモ駄目ダト言ハレタコトガアリマス。其時自ラ Brust ノ方ハ Senfbad ニ入レテ、肩ニハ kaltes Wasser フ注ゲト言ハレマシタ。何デモ病院カラ2丁モ離レタ所カラ看護婦ガ水ヲ運ンデキテ、ソレデ tiefe Atmung ガ出来テ始メテ恢復サレマシタ。ソノ Idee ガヤハリ先生自カラ御發案ニナツタモノデアリマス。

先生ハ Venensystem ガ少シオ弱クテ、左ノ Kniekehle = Varix ガアツテ、Haemorrhoiden モアリマシタ。ブダベストニ行カレル前ニ、私ニ「之ヲドウシヨウカ」ト御尋ネニナリマシタガ、「今ハ差支ヘナイデセウ」ト申上ゲマシタ。其儘デ洋行サレテ知ラヌ間ニ良クナラレタノデ「ヤハリ、シナクテ良カツタ」ト言ハレマシタ。「Lebensweise フ變ヘルコトニヨツテ良クナツタ」モノト先生ハ御考ヘニナリマシタ。

先生ハヤハリ、Venensystem ガオ弱イト見エテ、Haematurie フ來サレタコトガアリマス (Glomerulonephritis)。之ニハ我々モ大變頭ヲ悩マシマシタガ、併シ直接ノ死因デハナカツタヤウデアリマス。

先生ニハ内出血ガアツテ、Duodenalgeschwür ガアツタヤウニ思ヒマス。今日ノヤウニ、輸血ガ易々ト出来ナイ時代デアリマシタノデ、血型ヲ見タダケデ、用意ハシマセンデシタ、ソシテ其時確信ヲ以テ輸血ヲヤレナカツタノデアリマス。ソレハ餘リニ容態ガオ惡カツタノト、Haematurie ガアツタタメニヤラナカツタノデアリマス。

其後ニナツテ賀屋先生ガ innere Blutung フ起サレ、ソレニ對シテ輸血ガ行ハレテ今日元氣ニシテ居ラレルノヲ見ルト、イクラカ心殘リガスルノデアリマス。

之カラ諸君ニ交々立ツテ追憶談ヲシテ頂キタイノデアリマスガ、自分限りノ判斷デ先生ノ缺點ト思フコトナドヲ述ベテ見タリ、其他批評ガマシイコトナドハ言ハズニオイテ頂キタイノデアリマス。先生ノ神聖ヲ冒サヌ様ニシテ、タダ輕イ意味デ、何デモ活潑ナ、生キタビチビチシテキル追憶談ヲシテ頂キタイト思ヒマス。』

平井毓太郎名譽教授(第20圖)

『僕ハ伊藤君ト48年間一緒ニ居リマシテ、一番私ガ長ク交際^{ツキア}ツテキマス。伊藤君ガ18、私ガ17ノ時東京ニ出マシテ、明治14年11月ニ豫科ノ試験ヲ受ケマシタ。其時以來伊藤君ト私トハ非常ニ親シクナツタノデアリマス。

第 20 圖



明治15年ノ正月、私ハ羽織袴デ伊藤君ノ下宿、丁度萬世橋ノ近クニアル酒屋ノ二階ニ下宿シテ居ツタノデ、其處ヘ、私ハ田舎カラ出テ來タ許リデスカラ眞面目ニ禮儀ヲ正シクシテ年頭ニ行キマシタトコロ、伊藤君ハ極メテ磊落ニ、床ノ中デ酒ヲ飲ンデ居ツテ、上ツテ來イ、トイフヤウナ調子デシタ。大變ニ元氣カヨク、^{アガ}「エネルギツシュ」デアリマシタ。

伊藤君ハ随分惡戯ヲサレマシタ。「惡サ」ヲシテ人ヲ困ラセルトコロガ見エマシタ。兄サンノ所デモ随分ト亂暴ヲサレマシタ。又澤邊君トイフ友人ノ所デ……ソノ人ハ水戸藩ノ人デシタガ……酒ヲ飲ンデ、澤邊君ノオ父サンニ、ソノ人ノ惡口ヲ頻リニ言ハレルノデ、トウトウオ父サンハ怒ツテシマツタコトガアリマス。ソノ冗談ノ間ニモ床ノ間ノ置キ物ヲ貰ツテオクゾト言ハレ、父親ガ立腹シテ黙ツテ刀ヲ取りニ行ツタノデ、ソノ時居合ハセタ谷口君ガ……コノ人ハ身體ガ大キカツタモンダカラ……伊藤君ヲ擔ギ出シテシマツタコトガアリマス。ソノ時モ忘レズニ鏡餅ヲシツカリ抱ヘテ持ち出シマシタ。

併シ伊藤君ハ仲々ノ勉強家デシテネ……、實ニヨクヤリマシタ。先刻陳列場ノ「ノート」ヲ見テ感心シタノデスガ、大學カラ歸ツテ來テソノ日ノ「ノート」ヲスツカリ訂正スル迄ハ決シテ遊バナイノデシタ。一字々々實ニ丁寧ニ「ラヂーレン」シテ大變几帳面ニ訂正サレタモノデス。先刻「ノート」ヲ御覽ニナツテ判ラレタデセウガ、「ノート」ハ全部獨乙語デ書カレマシタ。先刻陳列サレテキナカツタヤウデスガ、數字ダケノ「ノート」ヲ作ツテ數字ヲ書留メテ之ヲ暗記サレマシタ。記憶力ガ特ニヨイ上ニ、カウイフ風ニ勉強サレタノデ大シタモノデシタ。西洋人ノ講義ヲ「ノート」ニトルコトハ他ノ人ガ出來ナカツタカラ、伊藤君ノヲ皆ガ借リテ寫シタモノデアリマス。

明治22年ニ卒業シテ伊藤君ハ外科ニ、私ハ内科ニ入りマシタ。コツホガ「ツベルクリン」ヲ作ツタノハ明治23年ノ暮デアリマシタガ、24年ニナツテ「ツベルクリン」ノ試験ヲヤラレ、伊藤君ハスクリツパト共ニ調べ、私ハベルツノ調べタモノヲ翻譯シテ報告シタコトガアリマス。丁度其頃迄ハ一緒デシタガ、伊藤君ハ鳥取ヘ歸リ、私ハ1年間田舎デ開業ヲシマシタ。ソレカラ又後デ京都デ落ち合ツタ譯デアリマス。

私ハ「ワルツエ」ガアツテ伊藤君ニ除ツテ貰ツタコトガアリマス。休暇ニハ伊藤、淺山（當時眼科教授）ノ兩君ト3人デヨク旅行シタモノデス。10圓程持ツテ3日位旅ヲスルノデスガ、色々

滑稽ヲ演ジテ歩キマシタ。能勢ノ妙見デ泊リ有馬デ泊ツタトイフヤウナコトモアリマシタ。淺山君ガ其後身體ヲ惡クシテカラ松浦君(當時皮膚科教授)ト一緒ニ旅行スルヤウニナリマシタ。私ハ48年間オ互ニ^{ツキア}交際ツテキマシタガ、伊藤君ト唯違フコトハ、私ハ情ケ者デ、passiv デ、聴クコトヲヤルガ、書イタリ話シタリスルコトハヤリマセン。伊藤君ハ aktiv デ、何時モ書く、話ス、頭ガ良クテ非常ナ勉強家デアリマシタ。東京ノ大學デ助手時代ニモ絶エズ投書ヲシタモノデス。殊ニベルンデノ勉強ハ先刻ノ Literatur ヲ見タダケデモ驚ク程デアリマス。今日彼處ニ陳列サレタ「ノート」ヲ見テ非常ニ感慨深ク思ヒマシタ。

私共ノ同級ノ者デ追憶會ヲシタイト思ヒマシタガ、和辻君ト私トダケシカ残ツテ居ラヌノデ出來マセンデシタ。今日ハ鳥潟君カラ、私ガ日頃念願シテ居ツタ事ニ誘ハレ、大變有難ク感謝申シマス。』

津田太郎氏(第21圖)

第 21 圖



『私が卒業シタノハ明治40年デ、其時カラ伊藤、猪子兩先生カラ御世話ニナリマシタガ一年半位シカ教室ニ居リマセンデシタ。同窓デハ山内君其他勉強家ガ多カツタノデアリマスガ私ダケハ勉強ヲシマセンデシタ。私ハ情ケ者デアリマシテ、圖書閱覽室ニ置イテアツタ大キナ圓イ「テーブル」(現ニ外科圖書閱覽室ニ在リ)ノ南西角ニ「ストーヴ」ガアツテ、ソレヲ圍ンデ「ストーヴ」會ヲヨクヤリマシタ。併シ或ル時ニハ私モ先生ノ御相手ヲ致シマシタ。

コレハ先生ヲ煩ハセタ最初ノ終リデアリマスガ、大正何年カニ私ノ義兄ガ自轉車カラ落チテ膝關節部ヲ怪我シタノデアリマス。ソレヲ或醫者ガ縫ツタトコロ、其處カラ感染シテ脚全體ノ廣汎ナ Phlegmone ヲ起シテ早速私ノ所ヘ依頼シテ來マシタ。兄ノ事デスカラ私が手當ヲシマシタガ、結果ハ面白クナカツタノデ伊藤先生ニお願い申シマシタ。先生ハ早速オ忙シイ中ヲ汽車ニ乗ツテ、驛カラ宅迄ハ人力車ニ乗ツテオ出デ下サツタノデアリマス。丁度「コラルゴール」ノ靜脈注射ガ流行シテオツタノデ、ソレヲ致シマシタガ結局死亡致シマシタ。埋葬スル爲ニ其後間モ無ク京都ニ上リソノ際先生ヲオ訪ネシマシタ。コウイフコトヲ申シ上ゲテヨイカドウカト思ヒマスガ、其際一寸シタ品物ト共ニ金ヲ50圓包ンデ先生ニ持ツテ行キマシタトコロ、丁度先生ハオ留守デシタガ、ソノ翌日先生カラ御手紙ガ來テ、品物ヲ貰フガ金ヲ貰フ譯ニイカヌ、全部返スト君ガ困ルカラソノ中20圓汽車賃ニ貰ツテ置クト云ハレテ残り30圓ヲ書留デ送り返サレマシタ。

先生ガコウイフ風ニ清廉潔白ナオ方デ、大變思ヒ遣リノ深イオ方デアツタコトガ、コノ一事ニヨツテモ判ルト思ヒマス。近時特診問題トハ如何ナルモノカ内容ハ知リマセンガ、カハル先

生ノヤウナ考ヘノ持主許リナラバ決シテ面倒ナ問題ハ起ラスト思ヒマス。』

鈴木正次博士(第22圖)

第 22 圖



『私が伊藤先生ノ門下トシテ御厄介ニナリマシタノハ、大正3年デアリマス。明治44年ニ卒業スルト直グ陸軍ノ方ヘ行キマシタノデ、大正3年ニナツテ大學ノ方ヘ御厄介ニナリマシタ。私ハ軍服ヲ着テ毎日教室ニ出テキマシタ。丁度大正4年ニ名古屋デ學會ガアリマシタガ、其時「脱退事件」ガアリマシタ。ソノ歸途彦根ノ樂々園ニ一泊シテ宴ヲ催シタノデスガ、其時先刻平井先生ガ申サレマシタヤウニ、先生ハ色々惡戯ヲサレテ、私ノ軍服ヲ脱ガサレタリシテ散々カラカハレマシタ。ソノ様ナ事デ先生ノ恐イトイフ感じガトレテ大變親シク感じマシタ。

私ハ先生ノ「テーマ」デ簡單ナ仕事ヲシマシタ。ソノ結果ガ、先生ノ不斷考ヘテ居ラレルノトハ違ツテ出タノデアリマス。ソレデ世話ヲシテ下サツタ尾崎先生ガ、モ一度ヤリ直シタラドウ

カト言ハレマシタガ、自分ノ成績ハ先ヅ御覽ニ入レヨウト思ツテ其儘先生ニ御見セシマシタトコロ、私ガ遠慮勝チニ書イタトコロヲ大變力強ク附ケ加ヘラレテ、大變ニ有難味ヲ感じタノデアリマス。

私ノ大學教室ヘノ在學期間ハ陸軍ノ規定デ2ケ年トイフコトニナツテキマシタ。其終リニ近ヅイタ頃、丁度冬ノ大變寒イ夜デアリマシタガ、先生ノオ室デ私ノ論文ヲ見テ頂イテキル中ニ、先刻鳥潟教授ノ言ハレタ膽石ノ發作ガ起ツテ大變苦シマレマシタ。自分ノ書イタツマラヌ報告ヲ訂正シテ頂クタメニ、先生ガ寒イノニモ拘ラズ御熱心ニヤツテ下サツタ爲ダト思ヒ、ドウシテイ、カ判ラヌ思ヒガ致シマシタ。其當時ヲ憶フト大變懐シイ感じガ致シマス。』

星野貞次教授(第23圖)

第 23 圖



『私ハ伊藤先生ノ門下生トシテハ、ホンノ8ケ月程デ末席ニ坐ルベキデスガ、鳥潟教授カラ茲ニ坐レト言ハレマシタノデ茲ニ坐リマシタ。坐席ノ關係デ(順番ニ)一言申上ゲマス。

私ハ今日カラ思フト伊藤先生ニ對シ申譯ノ出来ナイ數々ノ事ヲシテ居リマス。教室デ御厄介ニナツテ居タ間ハ先生ノ心裡ヲ充分理解出来マセンデシタガ此ノ頃泌ミ泌ミトソレガ判ルヤウニナリマシタ。私ハ明治43年卒業ト同時ニ伊藤先生ノ御世話ニナリマシタ。同級ニハ名古屋ノ横井濟、東京ノ鈴木平十郎、伊藤弘教授ノ3人ノ錚々タル秀才ガ居リマシタ。ソレデ此等3人ハ廻診毎ニ glatt デシタガ、私ダケハソノ度毎ニツカマツテ、

ニガ^カミト辛^カミノ籠ツタ小言ヲ頂キ、其度^スニ竦ム思ヒガ致シマシタ。ソレガ私ニハ耐ヘラレヌノデ先生ニ意趣返シヲシマシタ。

病舎ニ入ツテ最初受持ツタノガ^{ニクイ}得體ノ知レナイ患者デ、3年來 frei デ入院シテキル、スレツカラシタ人デ、受持ノ者ヲ皆手古摺ランテ居マシタ。Diagnoseハ先生ガ外來デツケラレタ innere Haemorrhoiden トイフ診斷ノ儘デ入院シテキテ、3年後ノ私が受持ツタ時モ同ジ診斷名シカ記載サレテキマセンデシタ。西上君ガ以前ニ受持ツテ居ツテ、卒業シタ翌日ニ私が引續イテ受持タサレ、診マシテモ Haemorrhoiden ハ何處ニモ認メラレマセン。Rectoscop ヲヤツテモ見エマセン。Kranke ハ Rectoscop ヲヤルト痛イノデ拒ミマス、ソシテ先生ハ廻診毎ニ、私ノ診テキナイコトヲ其ノ患者ニ見出サレテ、盛ニ私ヲ^{ヤリ}遣込メラレルノデアリマス。トウトウ其ノKranke ハ死ンデシマヒマシタ。frei ノタメ Sektion ヲシタトコロ Leberdistoma デアリマシタ。ソノ時デス、先生ノ innere Haemorrhoiden ハ Fehldiagnose デ Leberdistoma ヲ先生ハオ判リニナラナカツタノデ、先生ハヒドイ者ダト考ヘマシタ。丁度私ハ昨年夏、身體ガ瘦セテキマシタノデ、内科ノ醫者ニ診テ貰ヒマシタガ、瘦セルノハ風邪ノ爲ダラウ位ニ言ハレルダケデ、判然タルコトハ分リマセンデシタ。入院シテ色々検査ヲ受ケマシタトコロ、私ハ Leberdistoma デアルコトガ判リマシタ。今自分が教ヘル身ニナツテ初メテ、伊藤先生ガ外來デー寸診テツケラレタ診斷ヲ falsch デアルト云ツテ先生ニ^{カコツ}託ケタコトハ、全クイケナカツタコトデアリマス。ツクヅク今ニナツテソレガ分リマシタ。

モ1ツ桑原君ガ前ニ居ルノデ想ヒ出シマシタ。萬里小路ノ理髮屋ノ女房ガ Epilepsie デ入院シ、ソレガ私ニ又受持タサレマシタ。夜中ニ Anfall ガアルト夜中デモ診ニ行カネバナラナイノデ困リマシタ。Trepan 今ハノヤウナノガアリマセンデシタ。桑原君ハ Trepanation ヲ早クヤツテ下サツタノデスガ、其際針ガスポツト Hirn ノ中ニ入リマシタ。桑原君ハ少シモ驚カズ悠々ト之ヲ抜キマシタ。其翌々日カラ Kranke ハ psychisch ニ變ニナリ、茲デ申シ上ゲルノヲ憚リマスガ、Kot ヲ糞ンデ總室ノ中ヲ持ち廻ツタリ、Mens ヲ散ラカスノデ、止ムナク靜養室ヘ入レマシタ。ソウスルト大キイ怒鳴リ聲ヲ出シテ發揚狀態ニナルノデ手足ヲ縛リマシタ。スルト次ノ廻診ニ先生ハ診ラレズニ其室ヲ通り過ギラレマシタ。廻診ガ終ツテカラ溜リデ皆ト話ヲシテキルト院長室ヘ來イト言ハレ呼び出サレマシタ。〔Kranke ヲ檻禁スルコトヲアンタ知ツテキマスカ〕ト言ハレ、檻禁設備ノナイ所ヘ入レテ惡カツタコトヲ、苦イ強イ〔エネルギー〕ヲ以テ言ツテ下サツタノデスガ、其時ニハ意味ガヨク判リマセンデシタ。其後私が北野病院長ニナツテ、伊藤先生ノ力強ク、言葉少ク、苦々シク氣一本ナ教ヘ方ガ、ツクヅク自分ニ判ツテキマシタ。

其後何トカシテ先生ニ一矢酬ヒ度イト思ヒ、滿洲ヘ行ツテカラモ、年ニ一度位ハ京都ニ歸ツテ必ズ先生ノオ宅ニ伺ヒ、〔私ハ曾テ先生ノ下ニ居リマシタ星野貞次デアリマス〕ト其度ニヒツコクヤリマシタ。之ハ行ク度ニ繰リ返シマシタ。愈々京都ヘ歸ツテキタ時モ先ヅソレヲヤリマ

シタ。其時先生ハ「判リマシタヨ」ト申サレマシタ。サモシイ復酬デアリマシタ。オ説ビ方々自分ノ恥ヲ申上ゲテ之デ失禮サセテ頂キマス。』

佐藤剛藏博士(第24圖)

第 24 圖



レマイト思ツテキマシタガ、烏潟、磯部兩教授カラ伊藤先生ノ追憶會ガアルトイフ通知ヲ受ケマシタノデ出テキタ譯デアリマス。先年烏取ヲ通過シタ時、其處ニ下車シテオ墓ニ參ツテ先生ヲ追慕シタノデアリマスガ、今回ハコウイフ御通知ヲ受ケタノデ是非來ナケレバナラナイト考ヘタノデアリマス。

私ハ今日迄32年間朝鮮デダシタ過失ナクヤツテキマシタ。明治39年11月24日醫科大學學長空デ荒木先生カラ卒業證書ヲ頂キマシタ。ソレカラ伊藤、猪子兩先生ノ御世話ニナリ、長ク居ル積リデシタガ、伊藤先生カラ確カ明治40年ノ4月カト思ヒマスガ、池上君ハ同仁病院ニ、オ前ハ京城ヘ是非行ケト言ハレマシタ。私ハ韓國ハ外國デアルノデ、父ノ内諾ヲ得ナケレバナリマ

セント言ヒマシタトコロ、「ソレハ不可ン。オ前ハ大學ヲ出テ既ニ「ゼントルマン」ダ。自分ノ事ハ自分デ決メヨ。明朝迄ニ返事ヲシロ」ト言ハレマシタノデ大變困リマシタ。ソレガタ方デ、川上漸君ガ親友デアルノデ下宿ニ歸ツテカラ相談シテ、翌朝返事ヲ致シマシタ。川上君ハ今度軍部ノ任務ヲ帶ビテ滿洲國ヘ出發サレルノデ、先刻此ノ會場ヘ寄ラレ、其ノ當時ヲ想ヒ出シタノデアリマス。之ハ屹度先生ノ靈魂ガ川上君ヲ呼ビ寄セラレタノデハナイカト一層ソノ感ヲ深クシタ譯デアリマス。

私ハ青年ノ意氣デ朝鮮ヘ行キマシタガ、其時ニ伊藤先生ハ「朝鮮ハ見込ガアルゾ」ト申サレマシタ。茲デ朝鮮ノ感想ヲ一寸述ベサセテ頂キマス。今日朝鮮ノ民衆2000萬ハ悉ク天皇ノ赤子ニナリマシタ。私ハ朝鮮ニ行ツテ1年ヲ經テカラ、京都ニ來マシタ時、先生ニ「朝鮮ノ青年ニ一寸教ヘマシタトコロ、大變ヨク覺エマス。此儘デ續ケテヤツテヨイデセウカ、ドウデスカ」ト尋ネマシタトコロ、「ソレハ面白イ、大イニヤリ給ヘ。併シソノ病院ヲ後ニハ公立ニシ給ヘヨ」ト申サレマシタ。朝鮮ヘ歸ツテカラソレヲ續ケタノデアリマスガ、軍ノ方ノ關係デ他ハ軍醫許リデアリマシタノデ、萬事私ニ委サレテ、私ガミンナソノ仕事ヲ致シマシタ。其後日韓併合ガ行ハレ、今度ノ日支事變ニ對シテハ、朝鮮人ハ日本人ダトイフ考ニナツテシマヒ、又志願兵制度モ出來テ朝鮮ハ悉ク忠良ナル臣民トイフコトニナリマシタ。其事ガ實際ニ於テ滿洲國、北支ノ建設ニ當ツテモ、朝鮮ガナカツタナラバ出來ナカツタカト思ヒマス。先生ガ當時、「朝鮮ハ見込ガアルゾ」ト申サレタコトハ、既ニソノ當時カラ先生ニ大ナル國策ノ先見ノ明ガオ有リニナツタコトヲ、今ニナツテ泌ミ泌ミ判ルノデアリマス。』

鳥瀉隆三教授

『順序ガ違ヒマスガ之ニ關聯シテ申シ上ゲマス。先生ガ先ヲ見ラレタトイフコトハ、明治42年頃「大阪ハアレハ大學ニナルゾ」ト言ハレマシタ。當時私ハ大阪赤十字病院ノ外科醫長デアツテ、當時ノ佐多サンカラ「高等醫學校ニ來ナイカ」ト私ニ言ハレタノデ、先生ニ伺ヒニ行キマシタ。伊藤先生ハ獎メラレマシタ。又荒木先生ニモ伺ツタトコロ、荒木學長ハ、「双葉ヲ摘ミタガル人ガアルモノダ、日赤ヲ辭メルノハ止セ」ト言ハレマシタ。併シ私ハ學問ヲスル方ガイ、ト思ツテサツサト醫專ノ方ヘ行キマシタ。猪子先生ニハ後デ御報告ニ行ツタトコロガ「オ前ハ何故赤十字ニ居ラヌカ、笠原ガ辭メタラ院長ニナレルノニ」ト言ハレマシタ。院長ニナリタイ人ハ澤山アリマス、私ハソノナコトカラ開放サレタイ。日赤ナンカ學問スル所デハアリマセントオ答ヘシマシタ。私ハベルンニ居ル時、先生カラ葉書ヲ頂イテ、ソレニハ「大阪ガ大學ニナツタ」トダケ書イテアリマシタ。非常ニ伊藤先生ハ先見ノ明ガアツテ、非常ニ早く人ヲ見テ推

薦サレマシタ。「機ヲ見ルハソレ隼三カ」ト御自分デモ言ツテ居ラレタ位デアリマス。』

森 武美博士(第25圖)



『伊藤先生ニオ目ニカ、ツタノハ明治35年ノ春、外來ノ診察場デアリマシタ。ソノ際、筆ガ立タナケリヤイカン、頭モ^キ惻カナキヤイカン。病院ニハ澤山若イ女ガ居ルカラ女中ニ物ヲ言フヤウナ言ヒ方ヲシテハイケナイ。出來ルコトハ直グ出來ルト言ヘ、出來ヌコトハ出來ヌト言ヘ、トイフ意味ノコトヲ申サレマシタ。患者ヘノ物ノ言ヒ方モ、先生ノ御世話ニナルヤウニナツテカラハ、大變嚴格デ、同ジコトヲモ一度言ヘト言ハレ、隨分度々言ハサレマシタ。處方箋ヲ書ク際モ無駄ヲ書クト叱ラレタ

モノデ、コウシテ申シ上ゲテユクト數限リナクアリマス。』

簀浦光雄博士(第26圖)

『私ガ伊藤先生ノ外科ニ居ツタノハ足掛ケ6年正味4年デ、伊藤先生ヲ理解スル上ニ於テハ引ケトラヌモノト自信シテキマス。

私ハ内務省ノ開業試験ヲ受ケテ醫者ニナツタノデアリマスガ、丁度其時京都大學ガ開放サレ、外科ノ專修生ヲ募集シタノデアリマス。5人試験ヲ受ケテ私1人ガ通ツテ專修生トシテ私ハ入レテ頂キマシタ。翌年初代助手ハ府立ノ方カラ來タノデアリマスガ、尾見薫、坂部、革島、國香等ノ歷々デアリマシタ。革島カラ急ニ、君ハ介補ニナレト言ハレテ介補ニナリ月給14圓ヲ

第 26 圖



貰ヒマシタ。ソレカトイフモノハ眼カラ火ノ出ルヤウニ非常ニ叱ラレマシタ。アノ時ノ伊藤先生ノ「エネルギー」理想ハ猛烈ナモノデアリマシタ。1例ヲ舉ゲマス、當時ノ Operationssaal へ入ル時ノ風ハ、Keim ガ散ルノデ「ワゼリン」デ髪ヲ分ケ、Borwasser デ含嗽シ、昇汞水デ顔ハ勿論鼻、耳ノ孔ヲ拭キ、カ様ニシテ入ツタモノデアリマス。當時「マスク」ハ無カツタノデ Husten ノ時ハ口ヲ塞イデ鼻カラ呼吸ヲスルコトニナツテキマシタ。之ハ皆手術野ニ細菌ヲ散ラサヌ爲ノ注意デアリマシタ。

病舎ノ話ニナリマスガ、私ハ第3病舎(現在ハ取毀サレテ内科南病舎ガソノ跡ニ建ツテキル)全部ヲ托サレ晝夜兼行デ働キマシタ。胃液ヲ始メ、諸種ノ検査カラ手術、病理解剖ノ所見、退院ノ「プロトコル」ヲ出スニ至ル迄、皆自分デヤリマシタ。其際退院ノ「プロトコル」ヲ書ク時ニ、良イ紙ヲ使フト第三者ニ迷惑ガカ、ルト言ハレテ大變叱ラレタモノデス。今日ノ時勢ニ於テ紙ノ節約ヲ非常ニ叫バレテキマスガ、當時既ニ行ハレテキタノデアリマス。

荒木先生ノ息子サンガ怪我ヲサレテ、奥サンガ病舎ヘ連レテ來ラレタコトガアリマス。ソノ時用意ヲシマスカラー一寸オ待チ下サイト言ツタトコロガ、歸ツテシマハレタノデス。翌日院長室ニ呼バレ「醫者ニナツタカラト云ツテ偉サウニシテハイカン」ト先生カラ言ハレテ叱ラレマシタ。又或ル朝、車夫ガヤツテキテ、昨夜喧嘩ヲシテ刀デ心臓ヲ刺サレ、或醫者カラ Naht ヲヤラレタト云ツテヤツテ來マシタ。胸腔出血ヲシテキルラシイノデ、Naht ヲトツテミルト、ブート血ガ出テ死ニマシタ。ソウシテキル中ニ朝ノ外來ガ始マリ、外來「カルテ」ヲ書イテ警察ヘ通知シタトコロガ、警察デハ市役所ヘ知ラセト言フノデ、直グニ持ツテ行クコトガ出來ズ、死骸ヲ一寸廊下ニ置イテオイト所ヲ先生ニ見ツケラレテ叱ラレマシタ。ソノ際先生ニ経緯ヲ述ベテ、持ツテ行キ所ガナイカラ廊下ヘ置イテオキマシタト申シマシタガヤツパリ叱ラレマシタ。

ヨク叱ラレマシタガ、「カルテ」ヤ「プロトコル」ヲ書き間違ヘヤ字ガ違ツテキルト非常ニ叱ラレマシタ。醫者ニナツタラ人格ヲ高揚スルヤウニ、言葉遣ヒニモ、字ヲ書クニモ注意セネバイカント、始終朝カラ晩迄叱ラレタモノデアリマス。』

第 27 圖

横井濟博士(第27圖)

『先刻申サレマシタ 星野教授ト同期ノ卒業デアリマスガ簡單ニ一言申上ゲマス。

唯今字ニ關シテ話ガアリマシタガ、私ノ書イタ字ノ中デ、検査ノ檢ノ字ノ扁ヲ手扁ニ書イテオイトコトガアリマシタ。先生ガ之ヲ見ラレテ「之ハ、アンタハ何カ辭書デ見マシタカ?」圖書室ヘ來イ「ト言ハレルノデ行キマス。日本ノ字ハヤハリ漢字デスカラ、漢字ヲ使フ場合ハ漢字デ書カネバイカンドス。間違ツタ字ヲ書イテハイカンドス」ト言ハレマシタ。

モ1ツ「レフエラート」ヲ書イテ出シタ後デ、「一寸オ出デナ



サイ」ト言ハレ、生理ニ關シタコトダカラ、先生ハ隅カラ隅迄本ヲ探サレタノデアリマスガソノ本ガ何處ヲ見テモ無カッタノデアリマス。ソノ事が、ブスツト胸ニ五寸釘ヲ刺サレタヤウナ思ヒガシテ今尙胸ニ殘ツテキマス。』

鈴木平十郎博士(第28圖)

『私ハ腕白デアリマシテ考ノ到ラスモノデアリマス。御承知ノヤウニ先生ガ東京ノ學會ニ行カレマスト、ミンナト一緒ニ朝日樓ニ泊ラレマシタガ、宿ニ着クト直グ藪蕎麥ヲ食ベテ休マレ

第 28 圖



ルノガオ極マリデシタ。私ハ大キナ鼾息ヲカキマスノデ朝起キルト先生カラ「オイ平十郎、昨夜ハ大キナ鼾息ヲカイトナー」ト言ハレマシタ。私ハ先生カラ鈴木ト呼バレタコトハナク、何時モ平十郎、平十郎ト言ハレマシタ。

鳥瀉教授カラ餘リシメツボイコトハ言ハヌヤウニト申サレマシタガ、丁度先生ガ薨クナラレル2年程前ニ手紙ヲ下サツテ、
「身體ガ惡イカラ佐々廉平君ニ診テ貰ヒ度イ、手續ヲシテクレ」ト言ツテ來ラレタノデ、直グオ出デ下サイト電報ヲ打チマシタトコロ、2日程シテ先生ガヤツテ來ラレマシタ。佐々君ノ検査ノ結果ハ Eiweiss ガ少許ト Erythrocyten 及 Zylinder ガ少シア
ルダケデ Diät ヲ氣ヲツケルヤウニト streng ニ言ハレマシタ。

先生ハ「酒ヲ飲ンデハイケナイカ」ト尋ネラレ、私ガ佐々君ニ問フタトコロ、「Maximum Dosis 2合位デスナー」ト言ハレ、ソノ通り先生ニ申シ上ゲマシタ。ソノ後デ先生ト酒ヲ飲ンダ際ニ未ダ Maximum Dosis 2合ニナリマセンナー」ト申サレマシタ。本日京都ヘヤツテクル汽車ノ中デ、計ラズモ佐々君ト同車シ、急ニシメツボクナツテ全ク感慨無量デアリマシタ。先生ハ晩年餘リ酒ヲ飲マレマセンデシタ。』

澤村榮美博士(第29圖)

『私ハ長イ間大阪ニ居ツタ關係上、先生ガオ若イ時分同宿サレタ住友ノ理事長ノ方カラ聞イタノデアリマスガ、先生ガ羽織袴デ暮ノ30日ニ出テ行カレ隨分酔ツテ歸ラレタコトガアリマス。其時今日ハ31日デスヨト言ツタトコロ「ソウカ」ト言ハレルノミデシタ。先生ノ半面ガヨク表ハレテキルト思ヒマス。

叱ラレタ話ハ先刻カラヨク出テキマスガ、之ハ先生ノ偉大ナル愛ノ發露デアリマシテ愛ナクシテ出來ナイコトデアリマス。

私ガ洋行シテコツヘル先生ノ下ニ居ツタ時、先生カラ時々御手紙ヲ頂キマシタ。ソノ中ニ「京都大學ノ門ノ前デオ前ノ女房ニ會ツタガ、2人ノ子供モ丈夫ニシテキルカラ安心シロ」トノ御

第 29 圖



手紙ヲ受ケマシタ。先生ハ本當ニ叱ラレルノデハナクテ愛スル爲デアリマシタ。

先生ガシベリア旅行中汽車ノ中デ牛乳ノ古イノヲ飲マレテ中毒^アラレ、下痢ヲサレタコトガアリマス。ソレデブダベストヘ寄ラズニベルンヘ先ニ行カレ、コツヘル先生ニ會ヒタイト申サレルノデ私モ同行シタノデアリマスガ洵ニ師弟ノ情愛ガ濃ヤカデアリマシタ。

先生ハ大變意地ツ張りガ強イノデアリマスガ、根據ガアレバアツサリ承認サレタノデアリマス。ソレニ關シテコンナ話ガアリマス。瑞西ハ大變寒イガ樺太ノ南カ北カトイフ問題ガ出マシタ時、先生ハ瑞西ハ大分南ノ方デアルト固執サレ、私ハ、イヤ樺太位ダト思ヒマスト言ヒ張りマシタ。暫クシテ先生ハ地圖ヲ持ツテ來ラレ、瑞西ノ緯度ハ北緯47度ダ。君ノ方ガ正シカツヨ¹。先生ハコウイフ風ニ負ケタ時ハアツサリ承諾サレマスガ、ドウシテモ本ヲ見テ、確カナ根據ガナケレバ承認、サレナイノデアリマス。』

第 30 圖



波多腰正雄博士(第30圖)

『今、澤村サンノ言ハレタヤウニ、先生ニハ實ニヨク叱ラレマシタガ、オ叱リノ中ニハ實ニ大キナ愛ヲ持ツテ居ラレタノデアリマス。私達ハ到ラヌ爲ニ叱ラレタノデアリマスガ、鳥潟先生ハ別トシテ同級ノ者ハ如何ニシトラ叱ラレズニ済マセルカ¹ト、ソレニ汲々トシテ居ツタモノデアリマス。併シ先生ハ何時モ愛ヲ以テ叱ラレタノデアリマス。

大學デハ何カシナイトイカン¹ト言ハレタコトガアリマス。

ソレデ鳥潟先生カラ尾見、革島ガ既ニ脊髓麻酔ノ發表ヲヤツテキルカラ、君ハツトカイン¹ヲ以テヤツタラドウカト言ハレ、ヤラウト思ツテ先生ニ御相談シマシタトコロガ命ノ要ラストイフ人ガアツタラ、ヤツテモヨイガネ¹何トモ取りツキノナイコトヲ言ハレタノデ、其時ハ返ス言葉ガアリマセンデシタ。止ムヲ得ズ鳥潟先生ニ願ツテ猪子先生ニ申し上げてヤリマシタ。ソノ事ヲ後ニナツテ伊藤先生モ知ラレ、圖書室ノ大キナテーブル¹ノ上ニ澤山本ヲ並ベテ頭ヲ連ネテアレハコウダ、コレハ間違ダ¹ト指摘サレテ、私ノヤウナ虫ケラノヤウナ者ニ迄極メテ親切ニ御指導下サツテ、私ハ終生肝銘シテ忘レルコトガ出来ナイノデアリマス。一度ソノ御禮ヲ述ベタイト思ヒマシタガ、遂ニ御禮ヲ述ベルコトガ出来ズニ、先生ハオ亡クナリニナリマシテ大變遺憾ニ思ツテキマス。實ニ偉大ナ愛ノ中ニカ、ル御言葉ヲ頂キ何時モ感激シテキマス。』

古屋野宏平教授(第31圖)

『唯今波多腰サンカラ先生ノ温カイ所ヲ述ベラレマシタガ、私共ガ辻君ト一緒ニ居タ頃肺臓痛ノ患者ガ居ツテ呼吸困難ノ發作ヲ時々起シテハ輾轉反側シテ居リマシタ。丁度シユューメーカノ異壓裝置ガ教室ヘ届キ、河村氏ガソレヲ動物ニ實驗中ダツタノデ、人間ニソレヲ使ヒタクテ

第 31 圖



仕様がナカツタノデアリマス。ソレヲ河村君ハ私ヲ通ジテ「先生ニ願ツテ呉レ」ト頻リニ頼ミマシタ。ソレデ私が先生ニ申シ上ゲルト、先生ハ「イ、エ、イケマセンデスヨ」。又日ヲ更ヘテ頼ムト「イケマセンデスヨ」。先生曰ク、「人ノ生命ハ大切ナモノデスヨ、今日ノ醫學ハ何時、明日デモソレヲ救フカモ知レナイデスヨ」。私ハ何トモ忘レ得ナイ追憶トナツテオリマス。』

濱西正太郎氏(第32圖)

『私ハ先生ガ教授トシテノ晩年即チ大正7年カラノ弟子デ、ヤン茶坊主ノ末ツ子デアリマス。私程御心配ヲカケタ人ハナイト思ヒマス。始メノ中ハ先輩諸氏ノオ話ノヤウニ餘リニモ嚴格ナオ方デシタガ、肇君ガ教室ニ來ラレテカラハ幾分オ變リニナリ

マシタ。

先生ハ廻診ノ時ニ極僅カナ事ニモ大變喧シク言ハレマシタ。
「S-Magen ル 3×2 ヒ」、「含嗽」ノ判子ヲ私ハ處方箋ニ捺シテ歩キマシタ。廻診ノ時、先生ガ「何カ Mittel ヲ與ヘテアルダラウネ」ト尋ネラレマシタノデ、「與ヘテアリマセン」ト答ヘルト、「イヤヤツテアルダラウ」、「アリマセン」、スルト先生ハ患者ノ枕元ノ方ヲ眺メラレテ「之ハ何カネ」ト藥瓶ヲ指サレマシタノデ、「ア、ソレハ S-Magen デス」ト答ヘマスト、「S-Magen ハ藥デハナイデスカナー」ト反問サレタノデ全く恐縮シテシマヒマシタ。

先生自身「勤メ」ト云フコトニハ非常ニ嚴格デアリマシタ。重症患者ノ容態ハ一々先生ニ通知シナケレバナリマセンデシタ。又先生ハ患者ヲ非常ニ大切ニサレテ、患者ハ人間デアルトイフ事ヲ常ニ申サレテ、極メテ sicher ナ方法デナイ限り新シイ術式ヲヤラレマセンデシタ。又決シテ餘分ナ大キナ Wunde ヲ作ラレルコトガ無ク、probe Laparotomie ノ時ニハ漸ク2指ガ入ル位ノ Bauchwunde シカ作ラレマセンデシタ。ツマリ schaden シナイコトヲ「モツト」トシテオラレマシタ。』

山内半作博士

『先刻カラ多數ノ方々カラ、先生ノ嚴格ナコト、精勵ナコト、酒ノ後色々惡戯ヲサレタコト等、數々申上ゲレバ切りガナイノデアリマスガ、折角ノ追憶ノ場合デスカラ極簡單ニ一言ダケ申上ゲタイト思ヒマス。

ソレハ明治43年ノ4月下旬頃デシタガ、私ニ向ツテ、「此ノ間ノ學會ニ、君ハ岡山ノ醫專ニ行クヤウニ約束シテオイタカラ」ト申サレマシタ。其時ハ郷里カラ開業セヨト言ツテ來テ、開業

第 32 圖



ノ積リデ設計ヲシテ居タ矢先ダシ、學生ヲ教ヘルトイフヤウナ積リモナカツタノデ當惑致シマシタ。併シ直グ返事ヲシロトイフコトデ相談ヲシタ結果オ引受ケ申シマス「ト返事ヲ申シ上ゲマシタ。ソシテ「何時頃カラ行クノデスカ」ト尋ネマス「多分6月頃ダラウ」ト申サレタノデ、
「今迄ノ仕事ハ向フヘ行ツテカラ書キマスカラ、向フヘ行ク迄ニ學生ニ教ヘル準備ヲ一寸ヤラセテ頂キマス」、トコロガ「イヤ、ソレハ不可ン、ヤハリ書カネバイカン、是非行ク迄ニ書キ上ゲネバイカン」ト言ハレマシタノデ、譯ノ解ラヌコトヲ言ハレルモノダト思ヒナガラ不眠不休デヤツト書キ上ゲテ岡山ヘ参リマシタ。岡山ヘ行ツタ後デ考ヘテ見テ、先生ガヨクアレダケ言ツテ下サツタコトガ分リマシタ。岡山ヘ行ツテカラハ、ソノ翌日カラモウ大變忙シクテ、トテモ落付イテ書ク暇が無クテ、3年カ、ツテモ書ケタカドウカ分ラヌ位デシタ。私ノ希望ヲ入レテ下サツタラドシナ事ニナツタカ、先生ノ有難味ヲツクヅク感ズルノデアリマス。何でも事ハ同時ニ2ツスルモノデハナイ。書ク時ハ書ク、教ヘル時ハ教ヘル、何時モ物事ハ1ツ1ツ片ツケテイカネバナラヌト思ヒマシタ。之ハ先生ノ何時モノ御主旨ヲヨク言ヒ表シテオルト思ヒマス。』

磯部喜右衛門教授(第33圖)

第 33 圖



『論文ノ話ガ出マシタガ、私等ノ入ツタ頃ハ佐藤君ノ言ハレタヤウニ、教室ニ入ツテ間モ無ク何處其處ヘ赴任セヨト言ハレルノデ逃ゲ廻ツテ歩キマシタ。博士ニナラウトモ思ヒマセンデシタガ、其中ニ河村君ガ「テーマ」ヲ貰ヒニ行ツタ際「アンター體何年殘ツテ居ルコトガ出來ルデスカ」、2, 3年程、ソレデハ足りマセンヨ、5年位ハ」ト言ハレマシタ。皆ガ「テーマ」ヲ貰ツテ河村、尾崎君等ト一緒ニ實驗ヲヤ

リダシテ、丁度先生ガ**ブダベスト**ヘ行カレタ間ニ、動物ヲ無茶苦茶ニ使ツテ先生ガ歸ツテ來ラレテカラ大變怒ラレタコトガアリマシタ。

併シ論文ヲ書キ上ゲル時ニハミナ同ジ頃ニナツテ、論文ガ積ミ重ナリマシタ。丁度先生ガ**ブダベスト**カラ歸ラレタ時手ノ *Tendovaginitis* ヲヤツテオラレ、「ペン」ヲ持タレマセンデシタ。ソノ中手ガ治ラレ、バタバタト論文ヲ訂シテシマハレマシタ。自分ガ論文ヲ訂ス身ニナツテミテ、論文ヲ訂スノハ難シイモノデアルコトガ判リマシタ。餘程頭ノイ、先生ニ違ヒナイデスガ、餘程「エネルギー」ニヤラレナケレバ出來ヌ仕事デアリマス。後デ肇君ニ話スト「アレ程論文許リ訂スヤウデハ、モウ教授ニナルノハコリコリダ」ト言ハレマシタガ、ソレ位ニ「エネルギー」ニヤラレタモノデアリマス。』

伊藤弘教授(第34圖)

『私モ伊藤先生ノ助教授ヲ暫クヤツテキタ關係上一言申上ゲマスガ、先生カラ叱ラレタ事ハ人

第 34 圖



マセンヨ」ト言ハレ急イデ飛ンデ行ツテヤツト間ニ合ツタコトガアリマス。先生ハヨク飲マレテモ決シテ人ノコトマデモ忘レラレマセンデシタ。溫カイ感情ヲ有ツテオラレマシタ。何時モ叱ラレテ許リ居リマシタガ、ソレ以來先生ノ御溫情ヲ深ク感ジテオリマス。』

辻 廣 博 士(第35圖)

『先刻ヨリ伊藤先生ニ關スル色々ノ追憶談ガ澤山アツテ、私モ身ニ迫ルノデアリマスガ、未ダ述ベラレテオラヌコトハ、先生ハ公私ノ別ヲハツキリシテオラレタコトデアリマス。先生ハ公私ノ別ヲ非常ニ明ラカニサレマシタ。先生ハ院長ト學長ヲ勤メラレマシタガ、院長ヲヤツテオラレタ時ハ、自分ノ教室費ヲ最小限度ニキリツメラレテ、他ノ教室ヘ融通サレマシタ。是ハ院長ノ立場トシテ當然ナコトデアリマス。

學長ニナラレルト一變シテ教室ノ費用ヲ充分トツテ頂キ、機械モ充分買ツテ貰ヒマシタ。

先生ハ一方ニ「ユーモラス」ナ點モアリマシタガ餘リ嚴肅デアリマシタノデ普通ノ人ニハ判リマセンデシタ。廻診ノ後デヨク無駄話ヲシマシタガ、鈴木君ガ1ツノ「エピソード」ヲ殘シマシタ。廻診ガ終ツテ先生ガ「ドアー」ヲ閉メラレル前ニ鈴木君ガ轉ケテ椅子ガ飛ビマシタ、「君、何トモナカツタカネ」、「イ、エ何トモアリマセン」、突差ニ先生ハ氣持ヲ變ヘラレ、椅子ヲ撫デラレテ「君ノ身體ノコトヲ聞イテキルノデハナイヨ、椅子ハ壞ハレテナイナー」ト言ハレマシタ。

神田ノ合宿デ或ル夜酒ニ酔ハレタ席デ、其處ノ女中ガ眞黒ナ足袋ヲ穿イテキタノデ、先生ガ「足袋ヲ買ツテ上ゲルヨ」ト言ハレマシタ。ソノ時ハ冗談ト思ツテキマシタ。翌日學會カラノ歸リニ、丁度私ガ會費ヲ預ツテキタノデ私ニ「足袋ヲ1足買ヒタイヨ」、「白デスカ、黒デスカ」、白デスヨ、一寸大キイデスヨ、12文デスヨ」ト申サレマシタノデ、私が買ツテ歸ルト、ソレヲ飯ヲ食ベル時ニ渡サレマシタ。

又先生ハ材料ヲ大變大切ニサレマシタ。Oberarm ノ Sarkom ノ患者デ Skapula ヲ一緒ニ除

第 35 圖



ル手術デアリマシタガ、之ハ河村君ガ報告シテ第3番目ノ例ニナル患者ガ入院シマシタ。ソノ手術中出血シテ脈ガ悪クナリ、呼吸ガ止マリマシタ。河村君ハ臆セズヤツテキマシタガ「早くトルンデスヨ」,「早く手術ヲスルンデスヨ」ト申サレマシタ。之ヲ手術場デ採ルト貴重ナ材料ニナルノデアリマス。手術中ニトツタ材料ハ手術者ノ手ニ收マルノデアリマス。然ラザレバ燒カレテシマヒマス。其後法科大學ノ講演ニ「切斷シタ材料ハ手術者ノモノダヨ」ト述ベラレマシタガ、ソノ以前ニ既ニ先生ハカク申シテオラレタノデアリマス。』

平山遠教授(第36圖)

『私ハ一年志願兵トシテ伏見ヘ入營シマシタ。汚イ軍服デ塔之段ノ先生ノ宅ヘ伺ヒマシタト

第 36 圖



コロ、先生ハ教室ニ居ラレル時トハ全く變ツタ溫情デ慰メテ下サイマシタ。丁度雨ノ降ツテキル日デアリマシタノデ卷脚絆ヲ穿イテ行キマシタトコロ、卷脚絆ニ大變興味ヲモタレタノデアリマス。

私ハ北京ヘ行カナケレバナラナクナリマシタガ、ソノ際ニ佐藤サンノ話ノヤウニ「支那ハ將來有望デスヨ。行クンデスヨ」ト言ハレマシタ。アチラヘ行ツテカラ、ツマラスコトデ手紙ヲ出スト、ソノ都度

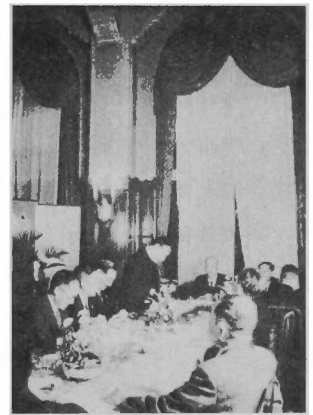
御手紙ヲ頂キマシタ。先生ハ非常ニ嚴格ナ反面ニ優シイ反面ヲ有ツテ居ラレマシタ。私ハ北京カラ奉天ニ行キ、其處カラ西洋ニ行キマシタ時、丁度倫敦ノ下宿デ先生ノ訃報ニ接シタノデアリマス。其時コチラデ催サレタ追悼ニ會スルコトガ出來マセンデシタガ、今晚ハ幸ニ列席スルコトガ出來マシテ誠ニ感慨無量デアリマス。』

鳥潟隆三教授(第37圖)

『先生ハ京都大學ガドウシテモ發展セネバイカント考ヘラレ「アンタ行クンデスヨ」ト言ハレテ皆行カサレマシタ。若シソノ際行カナイデ、翌日手術場ナンカヘ出テ手ヲ洗フト「アンタ手ヲ洗ハナクテイ、ンデスヨ」ト言ハレテ全く相手ニサレマセンデシタ。

私ガ圖書室ニ居リマス、先生ハ長イ手紙ヲ擴ゲテ兩手ノ間デ持ツテ來ラレ、「新潟ノ醫專ニ行ケ」ト申サレマシタノデ、私ハ「ツイ2、3日前先生ニ御相談スル迄モナク大阪高醫モ斷リマシタ」ト申シ上ゲマシタトコロ、先生ハ目ヲ丸クシテ「アンタ大阪モ斷ツタンデスカ」ト言ハレマシタ。

第 37 圖



助手ガ第1講座ト第2講座ガ交替制ニナツタ Geschichte ハ私ノ助手時代カラデアリマス。私ガ猪子先生ノ助手デアリマシタガ、ソノ時看護婦ノ優秀ナノヲミンナ自分ノ方ヘトツテシマヒ

マシタ。トコロガ、伊藤、猪子兩先生ガ相談シテ「イ、ヤウニシタヨト」猪子先生ガ申サレマシタ。是ハ私ガカ、ルコトラシタメニ、兩教授ガ相談サレテカ、ル風ニ交替制ニナツタノデアリマス。

以前カラ内科ノ方デハ、磯部外科、鳥潟外科トイフ風ニ直セト言ツテキマシタガ、私ハ反對シテキマシタ。トコロガ今日デハ内科デモ某々内科デナク、第1講座、第2講座、第3講座ノ講座員ガ交替スルヤウナ制度ニナリマシタ。

患者ニハ丁寧ニ言葉ヲ使ハネバナラスト日頃カラ申サレ、「コノオ方」トイフ風ニ言ヘト言ハレテキマシタ。トコロガ河村君ハ Bauer ニ丁寧ニ「コノオ方」ハト言ツタトコロガ、先生ハ「エー相手ハ Bauer デスヨ。」物事ニハ anpassen シナケレバナラナイ。物ノ宜シキニ叶ハネバイカンコトラ其處デ教ヘラレマシタ。

ソレト似タコトガモ1ツアリマス。今ハ教室デ髭ヲ生ヤスコトラ平氣デアルガ、我々ガ教室ヘ入ル時ハ髭ヲ落サネバナラスノデ大恐慌ノ1ツデアリマシタ。手術場ヘ入ル時髭ガアルト、Keim ガソコイラニ散ルノデ邪魔ニナルノデス。トコロガ此ノ事ガ先生御自身ニヨツテ解禁トナツタノデアリマス。ソレハブダペストノ學會ニ先生ガ出席サレルノデ髭ヲ生ヤス必要ガ生ジタノデアリマス。情勢ニ anpassen シテ事ヲヤラレタトイフコトガコノ一事デモヨク判リマス。

先刻辻君ガ言ハレタヤウニ、公私ノ別ハ非常ニ嚴格デアリマシタ。何カ物ヲ言ハレル時ハ、私事ノ理由ハ一番後ニ廻シテ何時モ公ノ方ノ理由ヲ眞先ニ立テ、公ノ理由ノ下ニ行動ヲサレマシタ。最前モ椅子ノ話ガアリマシタガ、身體モ椅子モ倒レマシタガ、椅子ハ公ノモノ、身體ハ個人デアリマス。ソウイフ際ニ、實際ハ身體ハドウモナカツタカトイフ意味デ言ハレタノデアリマスガ、突差ノ間ニ氣轉ヲ換ヘラレテ「椅子ノコトラ聞イテキルンデスヨ」ト公私ノ別ヲ教ヘラレタノデアリマス。

私ガ愈々大阪ノ赤十字ヘ行クヤウニナツタ時、「花モ實モアルヤウニ」ト言ハレテ先生ハ私ニ一軸ヲ送ラレマシタ。ソレハ展覽室ニ懸ケテアルモノデアリマス。

之ハ肇君カラ承ツタコトデアリマスガ、先生ハ大變奇抜デ、或時武德會ヘ短刀ヲ寄附サレマシタ。普通ナラバ「勝ツタ者ヘ與ヘテ呉レ」ト言フノデアリマセウガ、先生ノ條件ハ「負け様ガ非常ニ鮮ヤカナ者ヘ與ヘテ呉レ」トノコトデアリマシタ。

ソレカラ私ガ最初ノ洋行カラ歸ツテ來タ時(1917年12月)、日本ノ現状ヲ見ナケレバイカント思ツテ日本中ノ大學ヲ廻リマシタ。九大ヲ見學ニ行ツテ歸ツテカラ「九大ハ非常ニ患者ガ多イデス」ト申シマシタトコロ、先生ハ御機嫌ガ惡イノデアリマス。先生ハ人ヲ觀ラレルノガ非常ニ聰ク、早イノデアリマス。大學教授ノ目ハ何處ニ在ルノデアルカ、之ハ學問ノ研究トソレヲ指導スルガ爲デアツテ、決シテ患者ヲ多ク寄セツケルノガ目的デハナイノデアリマス。10數年後ニナツテカラ始メテ當時先生ノ御不興デアツタ譯ガ判然トワカリマシタ。

茲デ諸君ト一緒ニ伊藤家ノ萬歳ヲ祝スル爲ニ盃ヲ舉ゲテ頂キ度ウ御座イマス。』

一同起立，乾杯，着席。

伊藤肇博士(第38圖)

『鳥潟，磯部，伊藤3教授ノ御主催デ，今夕催シヲシテ下サイマシテ，學會前ノ御多忙ニ拘ラズ多數御集リ下サツテ有難ウ御座イマシタ。私等兄弟ヲ招待下サイマシテ何トモ御禮ノ申シ様

第 38 圖



ガ御座イマセン。父ガ亡クナリマシテカラ足掛ケ10年ニナリマスガ，未ダ死シダ氣ガ致シマセン。殊ニ晩年父トハ離レテ暮シテキマシタノデ，一寸汽車ニデモ乗ツテ行ケバ會ヘルヤウナ氣ガ致シテナリマセン。

ソレ程父ノ印象ガ深イノデアリマスガ，餘リ近クカラ見ルト全面ガ見エナイト同様ニ，御縁故ノ深イ大變多數ノ方々カラ色々ナ話ヲ聞カセテ下サツテ大變有益デ御座イマシタ。初メ招待ヲ受ケマシタ時，ソレヲオ斷リスルヨリモ先ダツテ，皆々様カラノオ話ヲ承リタイトイフ氣持ガ先ニ立ツテ，仰セニ甘ジテ御招待ニ預リマシタ。

終リニ臨ミ，謹ンデ御禮申上ゲマス。ドウモ有難ウ御座イマ

シタ。』

果物モ「コーヒー」モ濟ミ三々五々ノ追憶談ニ時ノ移ルヲ知ラズ，此時鳥潟教授ハ起立會衆ニ向ヒ『本タハヨイ機會デアリマスカラ伊藤先生ニ猪子先生喜壽祝賀會ノ時ノ活動寫眞ヲ手向ケタイト存ジマスカラ御覽ヲ願ヒマス』ト述べラレ，ヤガテソノ映寫開始，20分許リニテ終了。

『ソレデハコレニテ伊藤先生追憶會ヲ終リマス』トノ鳥潟教授ノ挨拶ニ從ヒ一同起立默禮中ニ「ボーイ」長ハ先生ノ御肖像ニ以前ノ如ク白絹ノ覆ヒヲ爲ス。一同靜カニ退散，時ニ午後10時半頃デアツタ。

ソレヨリ幹事ハ展覽ニ供シタル資料ヲ整理シ外科學教室ヘ引揚ゲタ。

當日ノ參席者ハ下ノ如クデアル。

參 集 者 (ABC 順)

千葉 忠 恕 (大津市)	藤 綱 晨 一 (中津川町)	萩 原 義 雄 (熊本市)
波多腰正雄 (大阪市)	原 守 藏 (大阪市)	橋 本 深 一 (岸和田市)
平井毓太郎 (京都市)	平 田 卓 二 (高知市)	廣 田 耕 作 (高知市)
平 尾 猛 (神戸市)	平 山 遠 (奉天市)	星 野 貞 次 (京都市)
猪子止才之助 (京都市)	河 合 六 郎 (大阪市)	加 藤 甚 七 (大阪市)
木 村 博 (東京市)	古屋野宏平 (長崎市)	桑 原 政 榮 (前橋市)
前田和三郎 (東京市)	松田邦三郎 (大阪市)	宮 本 哲 (高知市)
宮崎 松記 (熊本市)	宮 路 善 久 (八日市町)	三 村 忠 雄 (姫路市)

箕浦 光雄 (大阪市)	森 武 美 (東京市)	森井 初郎 (京都市)
中村 正雄 (神戸市)	緒方 祐將 (大阪市)	坂部 秀夫 (京都市)
佐藤 剛藏 (京城府)	澤村 榮美 (和歌山市)	鈴木平十郎 (東京市)
鈴木 正次 (京都市)	巽 馨 (大阪市)	烏居 惠二 (新潟市)
津田 太郎 (神戸市)	塚原 仲光 (大阪市)	辻村 秀夫 (長崎市)
辻 廣 (神戸市)	上田 寛一 (大阪市)	宇山 俊三 (京都市)
和辻 春次 (京都市)	山根 齊 (奉天市)	山内 半作 (大阪市)
横井 濟 (名古屋市)	横田 浩吉 (京都市)	吉益 爲則 (京都市)
神中新次郎 (神戸市)		

教室現職員

鳥潟 隆三 (教 授)	磯部喜右衛門 (教 授)	伊 藤 弘 (教 授)
大澤 達 (助教授)	土屋 準一 (助教授)	濱西正太郎 (講 師)
青柳 安誠 (講 師)	荒木 千里 (講 師)	藤浪 修一 (講 師)
浅野 芳登 (講 師)	鬼東 惇哉 (講 師)	横山 哲雄 (講 師)
坂田 信秋 (講師北野病院 院外科醫長)	盛 彌 壽雄 (講師大阪高 等醫專教授)	有原 康次 (助 手)
吉田 久士 (助 手)	村上 次朗 (助 手)	吉 武 信 (助 手)
藤岡 十郎 (助 手)	石野琢二郎 (副 手)	横田 清雄 (副 手)

當日盛會ヲ祝スル電信ヲ寄セラレタル人

朴 昌 薰 (京城府)

× × × ×

伊藤家ヨリ會衆ヘ一々次ノ如キ禮狀ヲ寄セラレタ。

謹啓 此度ハ學會前殊ニ御多忙之御事ト存ゼラレ候際 父年三ノ追憶會ヲ御催シ被下 私等兄弟
ヲ御招待戴キ候御厚情ノ御程難有奉深謝候

當日鳥潟先生ノ御挨拶ノ後卓ニ置カレシ父ノ肖像ノ前ニ一々御料理ノ配セラルルヲ拜シテハ
思ハズ涙ノ濡ルルヲ覺エ

御皆様ノ御追憶談ヲ伺ヒテハ生前ノ父ヲ間ノアタリ見ル如ク只々御皆様ノ父ヲ御思ヒ被下御
心ニ打タレナガラ感激ノ中ニ終始仕り候親シク拜趨ノ上御禮申上可ニ候ヘ共失禮ノ段御許シヲ
願ヒ茲ニ謹而以書中右御禮申上度如此御座候 敬具

昭和十三年四月 日

伊 藤 進
望 月 成 人
伊 藤 肇

.....様